

1. 力石に刻まれている雲竜等は船頭のしこ名と考えてよいか。

雲龍石は木ノ村亀吉が名付けて奉納したもの。

亀吉は明治5年2月の「東京力持番付」では、しこ名「亀吉」で東小結に載っている。

文政12年（1829）舟手・寺田家に生まれる。明治19年没、57歳。

2. 力石はいつ頃のものが。

幕末から明治時代にかけてのものである。雲龍石奉納は幕末のものと思われる。

3. 力石を持ち上げる大会のようなものがあつたのか。また、なぜこの石が境内にあるのか。

神社の祭礼時等に船頭さん等の力自慢大会があつた。

東京でも力持ち大会があつた。江戸時代から明治時代にかけて全国的に力試しが盛んに行われていた。

力自慢の人達が力石を神社に奉納した。

4. 都内の富士塚は、ほとんど江戸時代のものが多いが、なぜ流山のものは明治中期なのか。

明治中期の流山は水運で隆盛を極めており、金持ち商人が多く存在した。村の鎮守様が浅間神社なので、富士塚も作ろうという機運になったと思われる。

5. 築山ルールの根拠は？

民間信仰だから必ずしも同じルールで造られていない。都内の富士塚でも溶岩は一部しかない例もある。これは研究している所によって変わっているが、基本的に富士塚の上から富士山をのぞむことができるように築造される。

6. 富士塚築山以前の原状は、小さな富士塚があつたのかまたは畑だったのか。

畑または民家があつたと推定される。

7. 浅間大神石碑（明治19年）は小さな塚の頂上にあつたのか。または境内にあつたのか。

不明

8. 明治時代には富士山参詣が比較的気楽になつたにも関わらず明治時代に敢えて造つた理由。

当時は、現在の常磐線もなく、中央線も山梨までは延びていない（延びたのは明治34年）。気楽に行けることではなかつた。

上記4項を参照

9. 富士塚はいつ、誰の指揮でどのように造られたのか。築造費用は？

流山町誌には、明治24年から明治25年にかけて根郷の人達を中心に造られたとある。築造費用不明。

10. 造られた当初から女人禁制ではなかつたのか。

富士登山での女人禁制解除は明治5年（1872年）3月で、女人入山自由であつた。

富士塚を作つた目的は、富士山参詣に行けない女性や老人、子供のために作つたとも言われている。

- 1 1. 富士塚の高さを6 m、8 mと説明しているがどちらか。
一番低いところから8 mである。
- 1 2. 根郷の住民に築山を駆り立てた動機はなにか。
上記4項を参照
- 1 3. 新政府軍が錦の御旗を立てた場所はどこか。
境内裏付近で詳細な場所は不明である。
- 1 4. 現在の神社の建物は創建当時（1644年）のものか。神楽殿はいつ建立したものか。
博物館のジオラマを見るとかやぶき屋根となっている。いつ建てられたかは不明。
建て替えられている。
再建時期は質問者が調査して定例会で発表して欲しい。